

# 特定非営利活動法人 ビラーンの医療と自立を支える会

Health Assistance and Neighborhood Development Support(略称 HANDS)

## 活動案内 2019 年度版



「ビラーン B'laan」は、フィリピン南部のミンダナオ島にすむ 18 のアニミズム系先住民族の一つです。現在、本会は、ビラーン民族だけでなく、「ティボリ T'boli」「モノボ Monobo」、さらに、13 民族に分かれるムスリム系先住民族のうちの「サンギル Sangil」「マギンダナオ Magindanao」の村でも、医療や教育支援の活動をしています

## ミンダナオってどんなところ？

フィリピン共和国には、先住民族（Indigenous peoples）として1987年憲法に初めてその権利が明記された人々が総人口の17%、約1300万人（1996年※）暮らしています。特に、スペイン支配が及ばなかったミンダナオ島には固有の文化を今に至るまで継承している民族（イスラム系のモロ"Moro" 13民族、非イスラム系のルマド"Lumad" 18民族）が住んでいます。

ミンダナオ島のビラーン民族は、山岳部での狩猟採集のほか、一部平野部では陸稲や根菜類を栽培していました。しかし、アメリカ植民地時代に始まったフィリピン中部ビザヤ地方からミンダナオ島への入植政策や、1960年代以降の鉱山・農林業の大開発により、平野部の農耕適地を含む先祖伝来の土地と森を奪われてきました。

レイクセブ町（人口約9万人、2015年国勢調査）の半数を占めているティボリ民族も、ビラーンの人々と同じように、20世紀以降の入植政策や農業開発により農耕適地を奪われ、山岳部でも伐採業者や鉱業資本の進出で森が消滅して生活基盤を失いました。伝統文化の継承はもちろん、生存さえ厳しい状況におかれました。

一方でティボリ民族の地域には、先祖伝来の土地の奪回、環境の修復、そのための教育普及に対する支援が1960年代から入ったため、この地域の初等教育普及率は推定45%と、他の先住民族地域に比べると高く、アバカ繊維の草木染・手織りの織物ティナラクをはじめとする伝統文化も比較的よく継承されています。

しかし民族を問わず、文化的少数派である先住民族にとって、公教育は画一的カリキュラムであり、ドロップアウトする子どもも多くいます。さらに、いまだに続く入植者による土地収奪、農業資本によるモノカルチャーの拡大、都市部における民族差別、そして近年では、複数の国の企業投資による大規模な鉱物資源開発に脅かされています。ほとんどの先住民族家庭は、政府が定める貧困ライン以下（家族5人の世帯で1日あたり450円以下の収入）の生活にとどまっているのが現状です。

※フィリピン政府の先住民族国家委員会（NCIP）の前身である、北部文化的少数民族室（ONCC）および文化的少数民族室（OSCC）による調査。フィリピン各地に住む先住民族の詳細はわかりにくく、調査も行き届いていません。それが、先住民族のコミュニティが必要としている教育、医療などの基本的な公共サービスが届いていない理由の一つです。今後の国政調査では、先住民族人口についても国連開発計画の協力で含まれていく予定です。

# HANDS の活動地域

フィリピン共和国



ミンダナオ島拡大地図



スルタンクダラット州

ビラーンの聖地  
マトウトウン山



サウスコタバト州

ジェネラルサントス市

サランガニ州



## HANDS の現地協力組織

- CMIP: Catholic Mission to the Indigenous People (先住民族の伝統文化継承と教育を支援するカトリック・グループ)
- PFP: Partners for First Peoples Foundation (ティボリ、マノボ等山岳部先住民族の森林農業支援グループ)
- PIHS: Pasantambao Integrated Health Service (ムスリムの村の医療、保健推進グループ)
- COWHED: Cooperative of Women in Health and Development (ティボリ民族女性の組合)
- SCMSI: Santa Cruz Mission School Inc. (ティボリ民族文化継承を理念とする学校法人)
- NTP: Nabal Tabih Production (ビラーン民族の伝統織ナバルタビ振興グループ)

## HANDS のミッション

民族のアイデンティティ保持と先祖伝来の土地での経済的自立を求めるビラーン、ティボリ、マノボなどミンダナオの先住民族を、医療、教育、消滅した森の修復（植林及びアグロフォレストリー）、そして女性の自立支援事業を通じて支援しています。日本国内においては広報活動、セミナー開催などを行い、多民族・多文化共生社会実現に寄与することを目指しています。

## 会の設立と沿革

1996年7月、フィリピン・ミンダナオ島南部先住民族のひとつであるビラーン民族のコミュニティに、小さな医療センターを建設し、その運営を資金面で支えることから活動を始めました。2000年10月、神奈川県での認証を受けて法人化しました。

有用材を伐り尽くして伐採業者が去り、森が消えた山岳部で、生き延びる道を模索しているビラーン族、ティボリ族、カラガン族などの先祖伝来の土地は、広大なパイナップルプランテーションや入植者のコーン畑になっている平野部にありました。

山腹の緩斜面を耕し、コーンや根菜類栽培を生業とする30余りのコミュニティ住民約1万人が、私たちの活動の主な対象です。民族の言葉、踊り、伝統工芸などの豊かな文化を受け継いで、経済的、社会的に自立したコミュニティづくりを目指す人々を、4つの現地協力組織（CMIP、PFP、PIHS、COWHED）とともに支えています。

2013年6月より「チボリ国際里親の会（JOFPA）」の活動を引き継ぎ、ティボリやウボ民族などの先住民の教育を現地の学校法人サンタクル・スミッション・スクール(SCMSI)と協力して支援しています。

特定非営利活動法人ビラーンの医療と自立を支える会

（英文名称）Health Assistance and Neighborhood Development Support

理事長：山崎 登美子

会員：社員会員 42名 賛助会員 226名（2019年4月現在）

役員：理事5名、監事2名 計7名

事務局ボランティア：約5名

イベントボランティア：約10名

（住所等の連絡先は、最終ページをご覧ください。）

無医村での巡回診療、常備薬の設置、重症患者の支援、薬草栽培奨励、助産師・ヘルスワーカー養成とともに、簡易水道建設、医療保険の普及推進、さらに助産所開設による母子死亡率減少など、健康な村づくりを応援しています。



### 2018 年度報告

#### ① CMIP と協働の事業

奨学生（約 50 名）や給食支援対象 4 小学校の児童が病気やけがで学業を中断することがないように、常備薬購入費を支援した。

#### ② PIHS と協働の事業

助産所開設事業は、7 月に保健省の認可が、11 月にはフィルヘルス健康保険公社の医療機関としての認可がおりた。出産介助 38 件の実績を上げ、自宅出産のリスク軽減に寄与した。しかし、保険加入者診療患者に対する保険公社からの支払いだけでは、有資格出産介助助産師（プロバイダー）2 名の給与を賄うことは困難で、当団体の医療支援会費や寄付金を充当し、予算を大幅に上回る支援になった。

### 2019 年度計画

#### ① CMIP と協働の事業

奨学生や児童の常備薬購入費支援を続ける。

#### ② PIHS と協働の事業

助産師給与他の運営費支援を継続するとともに、収入増加に不可欠な妊産婦等の医療保険加入者を増やすため、コミュニティー単位の研修活動を資金面で支える。

プロバイダー育成のための支援を行う。

これらの支援は助成団体の助成金ではなく独自資金で行う。

# 初等教育普及と人材育成



すべての子どもが初等教育を終了できるように、給食支援や児童への奨学金支給にまた、教師、助産師、農業専門家など、将来のコミュニティーを担う人材育成のため、困窮度の高い世帯のハイスクール、カレッジ生に奨学金を支給しています。

## 2018 年度報告

### ① CMIP と協働事業

- 児童 17 名に、奨学金支援。
- 児童約 500 人週 3 回の給食費補助
- ハイスクール生 18 名に  
奨学金支援。
- カレッジ生 7 名に奨学金支給。
- ダバオ医科大学生 1 名に  
奨学金支給。

### ② PFP と協働

- 住民組合立小学校の  
教師 2 名の給与支援。
- 児童給食費支援。

### ③ SCMSI と協働

- 教師 7 名分給与支援。
- 児童とハイスクール生 40 名の  
校納金支援。
- カレッジ生 5 名の校納金支援。
- 16 名に奨学金支給。

### ④ その他

- 看護師育成の 2 名に奨学支援。

## 2019 年度計画

現地パートナー団体を通しての奨学金、学校支援は続ける。

特に、SCMSI の精神的教育里親方式に基づいた学校運営支援を見直し、学校支援と奨学生支援を明確にする。

現在の児童、ハイスクール生に対する奨学金は継続するが新規には募集せず、給食支援・学校運営支援を中心に行う。

カレッジ生、その他の高等教育の支援を拡大することを検討する。

熱帯の生態系を守るため、破壊された森の修復と、最貧層に属する山岳部先住民の持続可能な収入向上の両者を実現するため、傾斜地農法によるアグロフォレストリー（森林農業）事業を実施しています。



苗木やスコップなどの資材の支援に加えて、苗木育成を村ぐるみで見守る住民組織の育成、熱帯林修復の意義、傾斜地農法によるココヤシ、バナナや間作であるコーンや根菜類の栽培法など、理念、技術研修を実施しています。

## 2018 年度報告

コロナダル市バランガイ・アサンプション（ビラーン民族での地名ボルール）で、急傾斜地に在来種 4500 本、竹 800 本、生産区 30 世帯計 30ha にココヤシ、コーヒー、バナナ及び果樹苗合計 6750 本の植栽、理念技術研修からなる事業を実施。6 月完了時までには 2 回の手入れを終了した。（緑の募金助成・PFP と協働）

ツピ町クロッドの急傾斜地に竹や在来種 3500 本、受益者 26 世帯の緩傾斜地の畑に、各種果樹、ココヤシ他計 5,735 本を植え、理念技術研修、手入れ作業も終了した。（イオン環境財団助成・PFP と協働）

## 2019 年度計画

治安問題と現地パートナーの人材不足のため、助成金を受けた新規事業は暫時休止し、過去の事業の評価活動に重点を置く。

もと奨学生の農業専門家によるボルール地元の住民組織化によるアグロフォレストリー普及の新規活動（モデル農場事業）は自己資金で対応する。

# 女性自立支援



2002年のレイクセブ町ティボリ民族の組合 COWHED に対するティナラク織と縫製技術研修、2006年のビラーンの村アムグオにおける伝統織ナバルタビ「織の家」建設支援など、先住民族の希少な伝統文化継承の活動を支えてきました。

また、これらの伝統織物やその縫製品であるバッグ、小物、さらに、民族衣装に多用されるビーズ製品や真鍮細工を、日本の各種イベント会場で紹介し、販売することで、ティボリやビラーン民族女性の収入向上を支援しています。

## 2018 年度報告

### ① COWHED 支援

マニラを含めた国内市場の開拓が進み、チボリの伝統継承の拠点と評価されるようになった COWHED は、7 月にはミスユニバースフィリピン代表が店舗を訪ねて刺繍を体験する等、製品の販路拡大について自立に近づいた。

② ビラーンの伝統織ナバルタビ事業：新グループに委託し、工業用ミシンを支援した。製品は織が 4 本完成、マロン 7 枚、トゥバウ 35 枚完成。事業で植えたアバカ(マニラ麻の現地名)は 95%が活着順調に生育している。

## 2019 年度計画

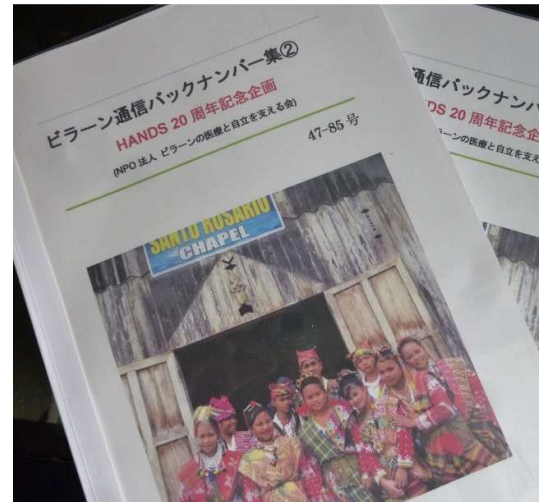
COWHED については、ニーズの大きい組合員世帯対象のカレッジ奨学金支援を継続、拡充する。

アムグオのナバルタビ織振興と女性の収入向上事業は、土壌流出防止と織の原料確保のためのアバカ栽培拡大の活動を自己資金で支援する。



季刊のニュースレター「ビラーン通信」の発行、ホームページによる広報啓発の活動に加えて、ティボリ民族のティナラク織製品、ビーズ、真鍮細工、ビラーンのナバルタビ織の反物などを、主に、神奈川県内や都内のフェスタやバザーで、紹介・販売し、ミンダナオの特に先住民族の現況を市民に広報しています。

年4回の団体主催の活動報告会、及び、2月に開催のよこはま国際フォーラムにおいて、5分間の海外支援活動に順次焦点を当てて、広く市民に広報しています。



## 2018 年度報告

季刊「ビラーン通信」(93-96号)は各6ページ300部発行した。

NGO関係フェスタ(グローバルフェスタ、よこはま国際フェスタ、あーすフェスタかながわ)、バザー(鷺沼・菊名・鎌倉)など、計6回参加し、特にフェスタではミンダナオ島の伝統的ハンディクラフト紹介・販売とパネル展示他広報活動に力を入れた。2月開催の「よこはま国際フォーラム」では「ミンダナオ先住民族の初等教育普及と人材育成」をテーマに報告を行った。ブース出展にも参加、ハンディクラフト販売をした。

ホームページは、ニュースレター公開と、イベント情報を中心とするお知らせ欄を定期更新した。

## 2019 年度計画

会報は環境保全等現地事業の縮小に伴い、従来の6ページを随時4ページに減らして、年4回ペースは維持する。

イベントは現地ハンディクラフトの販路拡大ニーズ減少もあり、参加頻度を減らす。

懸案である世代交代について、新事務局体制構築のため、事務所スペースや人材確保について、機会を逃さず準備を進める。

ホームページは、個人情報取り扱い方針、貸借対照表の公告などを加えるとともに、定期更新に努めて、必要な情報にアクセスしやすいページ作りを心がける。

# 財務報告

平成30年度活動計算書  
(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

特定非営利活動法人ピラーンの医療と自立を支える会  
単位:円

I 経常収益の部				
科目	予算額	決算額	差異	摘要
経受取会費(社員会費)	270,000	238,000	32,000	年6,000円×39口 他 月500円×8か月
寄附・医療自立支援	576,000	446,000	130,000	年12000円×36口 他 月1000円×4か月
寄附・教育支援	5,300,000	4,994,600	305,400	チホリ里子・SCMSI校・チホリカレッジ支援258万、ピラーン各種奨学金・教育全体112万、 医大特別奨学金100万、ブラクール・あしなが27万 その他
寄附・一般	1,000,000	1,684,982	▲684,982	助産所50万、ヤギ・水道・水牛支援42万、及びクリスマスプレゼント等使途特定寄付他一般寄付
(受取寄附合計)	6,876,000	7,125,582	▲249,582	
受取助成金	1,565,000	1,635,161	▲70,161	イオン環境財助成金100万円 WE21ジャパンみどり支援金10万円、緑の募金交付金清算分535,161円
事業収益	120,000	101,947	18,053	ハンディクラフト事業収益
雑収入	1,000	1	999	三井住友銀行預金受け取り利息
経常収益計	8,832,000	9,100,691	▲268,691	
II 経常費用の部				
科目	予算額	決算額	差異	摘要
事業費	530,000	1,046,798	▲516,798	PIHS:助産所支援(給与補助)62万円。ヘルス研修財源支援35万他。CMIP奨学生医療費2万円
人育成事業費	5,050,000	4,686,559	363,441	SCMSI(学校運営170万他計214万) PIHS(モリサ助産師コース奨学金14万) CMIP(医大生含むカレッジ奨学金120万他計183万) PFP(ブラクール20万他計40万)クリスマスプレゼント11万
農村開発事業費	140,000	246,784	▲106,784	ホール収入向上、環境保全の森林農業14万(6月終了)、水牛プロジェクト約5万円、PFPへPC支援約5万円
環境保全事業費	1,187,000	1,088,899	98,101	ツビ町クワド地区112万(うちイオン財団100万)
女性自立事業費	137,000	287,233	▲150,233	ナバル先'事業(WE21みどり支援・8月末終了)7万。継続分16万。COWHED支援4万
広報啓発事業費	150,000	101,134	48,866	(グローバル・あーず・よこはま各フェスタフォーラム)参加費4万、HP更新謝礼6万
予備事業費	100,000	0	100,000	フィリピン台風被災者支援(JPN経由で寄付予定が、JPNの判断で取りやめた)
事業費計	7,294,000	7,457,407	▲163,407	
管人件費	750,000	284,000	466,000	専従スタッフ、非専従スタッフ各1名
通信費	200,000	189,146	10,854	NTT、会報発送全4回分切手代ほか
旅費・交通費	140,000	264,618	▲124,618	ボランティアスタッフ交通費(2名分約10万)・現地モニター8月渡航費(11万)、車借り上げ代他
印刷・出版費	60,000	68,000	▲8,000	会報93-96号4回分印刷代(各回6ページ)
会費・会議費	55,000	51,480	3,520	日比NGOネット(JPN)1万、横浜NGOネット(YNN)5千円、JANIC3万円他
手数料	10,000	11,908	▲1,908	海外送金手数料ほか
消耗品費	30,000	28,958	1,042	インク代、印刷用紙、封筒、領収書用紙他
事務局賃借料	120,000	120,000	0	事務局賃借料
保険料	15,000	1,102	13,898	労災保険(専従、非専従各1名分)、年度内海外旅行保険(JANIC経由支払無し)
管理費計	1,380,000	1,019,212	360,788	
経常経費計	8,674,000	8,476,619	197,381	
H30年度末正味財産増減額	158,000	624,072		
H29年度繰越正味財産額	714,696	714,696		
H30年度末正味財産額	872,696	1,338,768		JOFPA基金残額415,129円含む

2019年4月18日

会 計: 関 初 美  
監 事: 山 口 慎 輔

## 平成30年度貸借対照表

平成31年3月31日現在

特定非営利活動法人 ピラーンの医療と自立を支える会

科 目	金 額
I 資産の部	
I 流動資産	
現金預金	1,338,768
流動資産合計	1,338,768
2 固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	1,338,768
II 負債の部	
1 流動負債	
前受け金	0
流動負債合計	0
2 固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	0
III 正味財産の部	
正味財産	
前期繰越正味財産額	714,696
当期正味財産増加額	624,072
正味財産計	1,338,768
負債及び正味財産合計	1,338,768

令和元年度活動予算案

特定非営利活動法人ピラーンの医療と自立を支える会

予算適用レート: ¥2.1/P(5/12 外泊)の銀行送金レート)

単位: 円

I 経常収益の部

科 目	H30年度予算	R1年度予算	摘 要
受取会費(社員会費)	270,000	228,000	6,000円×38口
寄附・医療自立支援	576,000	420,000	12000円×35口
寄附・教育支援	5,300,000	4,200,000	チホリ里子・学校支援200万、チホリカレッジ29万、ピラーン各種奨学金・教育全体125万、医大特別奨学金20万、ブラカール・あしなが30万 その他
寄附・一般	1,000,000	2,000,000	クリスマス、助産所運営等使途特定寄付、及び、一般寄付
(受取寄附合計)	6,876,000	6,620,000	
受取助成金	1,565,000	90,000	環境関係助成金新規申見送り。WE21ジャパンみどり(PIHS支援9万円)
事業収益	120,000	80,000	ハンディクラフト事業収益
雑収入	1,000	1,000	
経常収益計	8,832,000	7,019,000	

II 経常費用の部

科 目	H30年度予算	R1年度予算	摘 要
医療・衛生事業費	530,000	960,000	PIHS:助産所支援(助産師2名給与他)94万。CMIP奨学生医療費補助2万円
人材育成事業費	5,050,000	4,110,000	SCMSI(定期164万・カレッジ21万・担当手当1.5万)PIHS(モナリ2万) CMIP(医大生ジェニ-50万・カレッジ47万・ハイ29万小学生と給食29万,担当者手当15万) PFP(ブラカール20万・あしながと給食11万・手当1万) クリスマス(3パートナー合計)10万
農村開発事業費	140,000	86,000	ホルルのモデル農場運営(研修食費、講師手当、種子代等)
環境保全事業費	1,187,000	220,000	過去の事業12件モニター担当者手当、交通費、報告経費(PFP)
女性自立事業費	137,000	105,000	ナバル社原料アバカ育成3.8万、COWHED奨学金2名5.3万、アドバイザー(ジェマ)1.3万
広報啓発事業費	150,000	100,000	(あーす・よこはま各フェスタ)参加費2.5万、HP更新謝礼6万、勉強会1万他
予備事業費	100,000	100,000	
事業費 計	7,294,000	5,681,000	
管 人件費	750,000	500,000	専従スタッフ30万、非専従スタッフ20万(各1名)
理 通信費	200,000	180,000	NTT、会報発送切手代ほか、
旅費・交通費	140,000	180,000	非専従スタッフ交通費2万円、ボランティアスタッフ2名交通費(11万)現地車借り上げ(5万)
印刷・出版費	60,000	60,000	季刊会報は7月発行98号より原則4ページとする(前年度までは6ページ)
会費・会議費	55,000	55,000	日比NGOネット(JPN)1万、横浜NGOネット(YNN)5千円、JANIC3万円他
手数料	10,000	10,000	海外送金手数料ほか
消耗品費	30,000	25,000	インク代、印刷用紙、封筒、領収書用紙他
事務局賃借料	120,000	120,000	事務局賃借料
保険料	15,000	15,000	労災保険 海外旅行保険
管理費 計	1,380,000	1,145,000	
経常経費 計	8,674,000	6,826,000	
R1年度末正味財産増減額	158,000	193,000	R1年度末正味財産増減額
H30年度繰越正味財産額	714,696	1,338,768	H30年度繰越正味財産額
R1年度末正味財産額	872,696	1,531,768	R1年度末

平成30年度 ハンディクラフト事業収支報告書

特定非営利活動法人 ピラーンの医療と自立を支える会

I 収入の部

科 目	予算	決算	差異	摘 要
当期収入	220,000	148,160	71,840	あーすフェスタ、クローバルフェスタ(台風で初日のみ開催)、よこはまフェスタ(1日のみ)、鎌倉バザー 教会バザー計2回、Weフェスタ、その他 合計9イベント
入 寄付	10,000	1,650	8,350	
収入合計	230,000	149,810	80,190	

II 支出の部

科 目	予算	決算	差異	摘 要
当期支出	60,000	0	60,000	入荷はしたが、前払い金残額があり、新規支払いは発生しなかった
出展・出店料	4,000	6,800	-2800	イベント出店料、バザー参加費・寄付ほか
輸送運搬費	3,000	1,730	1,270	顧客への商品郵送費他
ボランティア交通費	4,000	2,500	1,500	販売ボランティア交通費他(一律500円/日)
備品消耗品費	1,000	0	1,000	
縫製謝礼	38,000	36,833	1,167	縫製ボランティア安井様縫製謝礼(材料費、送料含む)
製品販売経費小計	50,000	47,863	2,137	
一般会計へ繰り入れ	120,000	101,947	18,053	
支出合計	230,000	149,810	80,190	

令和元年度ハンディクラフト事業予算書

特定非営利活動法人 ピラーンの医療と自立を支える会

I 収入の部

科 目	予算	予算	摘 要
当期収入	220,000	180,000	あーすフェスタ、かながわ市民活動フェア、よこはまフェスタ 教会バザー 他 その他
入 寄付	10,000	10,000	
収入合計	230,000	190,000	

II 支出の部

科 目	平成30年度	令和元年度	摘 要
当期支出	60,000	60,000	テナントが織購入(個人所有者からの譲渡)
出展・出店料	4,000	4,000	イベント出店料(一般会計に計上の一部イベントを除く)
輸送運搬費	3,000	3,000	イベント会場往復宅配料金、顧客への商品郵送費
ボランティア交通費	4,000	4,000	販売ボランティア交通費他(一律500円/日)
備品消耗品費	1,000	1,000	
縫製謝礼	38,000	38,000	縫製ボランティア安井様縫製謝礼(材料費、送料含む)
製品販売経費小計	50,000	50,000	
一般会計へ繰り入れ	120,000	80,000	
支出合計	230,000	190,000	

## 活動を支えてください

### ◆ 定期ご寄付（月額）

医療・自立事業支援 1,000 円

教育全般支援または小学生奨学金 500 円

ハイスクール奨学金 1,500 円

カレッジ奨学金 4,000 円

この他、随時のご寄付やカンパも歓迎です。



### ◆ 社員会員

当法人の社員として会の運営にご参加いただける方は、その旨お申し出ください（定期ご寄付会費に加えて、**月額 500 円の社員会費**をお願いします）。特にお申し出がない場合は、「賛助会員」としてご協力いただき、年 4 回発行の会報等を通じて活動の成果をご報告させていただきます。

### ◆ 集めています！

**書き損じはがき**、**未使用の切手**（古いものでも結構です）を集めています。なお、これまでご協力いただいた使用済み切手の収集は 2019 年末で終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

### ◆ ボランティア募集

**手工芸品の仕分けや値札付け、会報発送**など簡単な作業を月に 1~2 回お手伝いください！  
神奈川県内や東京都内のバザーやイベントでの**伝統工芸品販売手伝い**も随時募集しています。

#### 連絡先

##### ■ 本部事務所

〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11

TEL & FAX : 045-500-9151

E-mail : hands-mindanao@nifty.com

<http://hands-mindanao.a.la9.jp/>

##### ■ 郵便振替

00210-5-72693

ビラーンの医療と自立を支える会

2019/08/10